

番号	研究者	大学	相談可能分野/産業界へのアピールポイント	キーワード1	キーワード2	キーワード3
エ-1	西原宏史 教授	茨城	水素酸化細菌の利用 ヒドロゲナーゼの解析と利用	水素酸化細菌	水素酸化酵素(ヒドロゲナーゼ)	水素利用
エ-2	石間経章 教授	群馬	流れの計測手法の開発と評価, 流れの可視化, 温度場の観察と計測および評価, 熱・物質移動評価	レーザ応用計測	可視化	流体運動
エ-3	田中正志 准教授	茨城	固体酸化物形燃料電池発電システムのシミュレーション、リチウムイオン二次電池の電圧過渡応答	固体酸化物形燃料電池(SOFC)	リチウムイオン二次電池	コジェネレーションシステム
エ-4	野田玲治 准教授	群馬	・バイオマスのガス化技術開発・廃棄物のエネルギー資源化技術開発・アンモニア燃料電池開発	ガス化	液化	流動層
エ-5	古畑朋彦 教授	群馬	カーボンニュートラル, カーボンフリーな燃焼システムの開発・評価, バイオマス燃料やアンモニアの燃焼, 排ガスの後処理, 水素製造できるガスタービン開発研究	燃焼関連技術	熱・流体・伝熱	排ガス後処理
エ-6	ゴンザレス ファン 准教授	群馬	エネルギー, 経済及び環境面 (3E) での新技術のアセスメント, エネルギー管理, エネルギー経済モデル	電気自動車	燃料電池自動車	軽量化自動車
エ-7	櫻井 浩 教授	群馬	X線計測・評価技術	X線計測	医用工学	Liイオン電池
エ-8	中川紳好 教授	群馬	電極関連材料の評価 多孔質構造解析	電気化学デバイ	電極触媒	多孔質構造
エ-9	天谷賢児 教授	群馬	噴霧・微粒化技術、マクロバブル、レーザー計測、分光法による熱流体計測、次世代モビリティ	噴霧・微粒化	マイクロバブル	次世代モビリティ
エ-10	山納 康 教授	埼玉	放電の発生によってお困りの方、特に真空中での絶縁方法や放電抑止法について相談にのります。各種の高電圧試験や絶縁性能を調べる試験、ヒューズ等の大電流の遮断試験の相談も受け付けます。本学には、高電圧・大電流の試験設備およびその専用試験室があります。AC・DC・インパルス高電圧試験システム(最大発生電圧は、AC:100kVrms, DC:200kV, 雷インパルス電圧:1000kV)が設置されており、各種高電圧試験を行うことが可能です。LC共振型大電流発生装置(低圧600Vまで100kArms, 高圧7200Vまで40kArms)により遮断試験を行うことができます。	高電圧、大電流	放電	真空、ヒューズ
エ-11	森本英行 教授	群馬	固体電解質の作製、電極材料の作製、電池材料の設計技術、電気化学特性の評価技術	電気化学エネルギーデバイス	蓄電池	全固体電池
エ-12	高橋俊樹 教授	群馬	プラズマ磁気閉じ込め技術、プラズマシミュレーション技術、熱核融合技術	核融合	プラズマ	電磁流体力学
エ-13	佐藤剛史 教授	宇都宮	・水熱反応を利用したバイオマス・重質油・廃棄物からの化学原料回収、二酸化炭素を利用した天然資源からの有用物質の抽出 ・高圧流体中での各種処理(合成反応、分解、ガス化、水素化、表面処理) ・水電解を利用した水素製造や水素化反応	水素製造	高圧処理	水熱処理
エ-14	古澤 毅 教授	宇都宮	・アンモニア低温分解用膜反応器の開発 ・CO2メタン化反応用膜反応器の設計・開発 ・触媒内包カプセル型リアクターを用いた各種液相反応	CO2資源化	再生可能エネルギー	水素エネルギーキャリア
エ-15	池口 厚男 教授	宇都宮	・畜産等の汚水を用いた微生物燃料電池の開発 ・畜産における空中微生物の遺伝子・動態解析とエアロゾルセンサーの開発 ・ICT(AI)を活用した家畜個体管理技術の開発 ・地域バイオマス利用、再生可能エネルギー計画、LCAによる環境影響評価 ・農作業時の熱負荷を緩和する着衣の作業者に及ぼす影響解明とファンデーションの開発	微生物燃料電池	再生可能エネルギー	地域バイオマス利用計画
エ-16	有賀 一広 教授	宇都宮	・木質資源の収穫技術 ・木質バイオマスのエネルギー利用 ・路網と作業システム・生産性とコスト分析	森林バイオマス収穫機械・システム	森林バイオマスサプライチェーン	路網配置
エ-17	川島 久宜 准教授	群馬	液体中の気泡の運動には蒸発・凝縮、ガスの析出・溶解が生じます。機械加工で発生する熱も加工物に影響を与えるため除熱方法を考える必要があります。さまざまな場面で見られる熱・物質輸送の影響を調べています。	気泡	熱・物質輸送	可視化
エ-18	藤木 淳平 准教授	群馬	脱炭素・循環型社会の実現に向け、排ガスや大気からの省エネ型CO ₂ 分離回収技術や、低温排熱有効利用技術に関連する研究を主として、材料開発から現象解析、プロセス検討まで幅広く研究に取り組んでいます。	多孔質材料	吸着	分離
エ-19	座間 淑夫 准教授	群馬	カーボンニュートラル社会の実現に向け、自動車用内燃機関ではバイオ燃料やCO ₂ とグリーンH ₂ から作られるe-fuelが着目されています。それらの液体燃料の微粒化現象と混合気形成メカニズムの解明を目指しています。	燃料噴霧	光学計測	モデルベース開発